



◆当面する重点作業

1. 本年の結実は、平年並みであるものの、樹や枝によりバラツキも見られる。自園の結実状況を確認し、隔年結果防止のため満開30日(5月下旬)までにあら摘果を終了させる。
また、仕上げ摘果の作業を丁寧に行い品質の向上と数量の確保をはかる。摘果時はよく見て果形・肥大の良いものを残す。
2. 支柱立てを実施し、高品質生産の基礎を固める。
降雨等により果実表面の乾きが悪いとサビ果の発生を助長するので、風通しを良くする。
5. 害虫(マイマイガなどのケムシ・イモムシ類)の発生が多い場合は、摘果時に合わせて捕殺と殺虫剤の散布を行う。
6. メンチュウの発生が見られる所は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
7. うどんこ病の被害枝は2~3芽多く切り取り、除去を行う。
8. 腐らん病は、見つけ次第、切除・治療・焼却を適切に行う。特に枝腐らんが目立つので注意する。
9. 野菜・花の収穫が始まっているので、周囲の圃場に十分注意して農薬散布をする。

◆受粉種のメイポールの摘果について

早期に摘果・せん定を行って隔年結果を防止する。

◆腐らん病削り取り動画について

長野農業農村センターにおいて、近年増加している「腐らん病」の削り取り動画が、YouTubeで公開されています。ぜひ参考にし、「腐らん病」を掃きましょう!

スマートフォン・タブレットで下記QRコードを読み込んでも視聴できます



◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：5月28日(水)~6月1日(日) 散布日 月 日
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	
アントラコール顆粒水和剤	200g	黒星病・黒点病・褐斑病・斑点落葉病・すす斑病・すす点病	45日
Ⓔダイアジノン水和剤34	100g	シクイムシ類・リンゴタムシ・キンモンホリガ・カイガラムシ類	30日

3. 散布量：10a当り⇒5000ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①腐らん病の多い場合は、一輪摘果が終了したら、トップジンM水和剤1,500倍(水1000ℓ当り66g)を特別散布する。
ただし、発芽前にベンレート水和剤を使用した場合は、ベンレート水和剤3,000倍(水1000ℓ当り33g)を使用する。(トップジンM水和剤とベンレート水和剤は、年にどちらか一方のみの使用のため)
 - ②雨が多い場合は、通常の展着剤に代えて固着性展着剤アビオンE1,500倍(水1000ℓ当り66mℓ)を使用しても良い。
 - ③祝と人着つがるは、収穫前日数の関係上、時期が遅れないように散布をする。
 - ④風通しの悪い園や温度が低い場合の散布は、乾きが遅くなりサビ果になりやすいので、早朝の散布を遅らせる。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：第6回薬剤散布時、又は継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000g当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

〔葉面散布の場合〕

1. 散布肥料：グリーントップ500倍（1000g当り200g）又はリーフマグ1,000倍（1000g当り100g）
2. 使用時期：5～6月に2～3回
3. 留意事項：単用散布を推奨するが、定期薬剤散布に混用してもよい。

〔土壌施用の場合〕

1. 施用肥料：硫酸マグネシウム25 10a当り2袋
2. 使用時期：5月

◆干ばつ・多雨対策について

降雨が少なく、晴天が7日以上続き乾燥状態になっている場合は、10a当り、20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。幼木に対しては特にかん水をこまめに行う。敷きワラを行い、水分ストレスを減らす。

少雨で土壌が乾燥するとカルシウム欠乏が発生しやすいので、必要に応じて葉面散布を行う。

降水量が多い場合は「根痛み」を防ぐために、排水対策をする。

特に高密植（新わい化）栽培では、水が24時間以上溜まると水ストレスによる黄変落葉が発生する。

◆人着つがる袋かけについて

下記の日程を目安に準備を進める。果実への病虫害発生防止の為、薬剤散布をしてから袋かけを行なう。

品種	被袋時期	摘要
人着つがる	落花30日頃から（5月末頃から）	人着限定・早いと生理落果の危険あり

◆曇天が続く場合の軟弱徒長対策について

曇天が続く軟弱徒長になるようであれば、スミクリン（5袋/10a）を施用する。

◆高密植（新わい化）栽培の管理について

1. あら摘果を早急に行う。
2. 仕上げ摘果は幹の太さに応じて着果させる。
3. 本植えした樹の主幹先端で、新梢の伸びが良い場合は腋芽も着果させ、仕上げ摘果で落とす。
4. フェザー先端の伸びが強い場合は、伸びが止まるまで仕上げ摘果しない。
5. フェザーの誘引を行い下垂させる。
6. 目標樹高に満たない場合は主幹延長枝の固定と摘果を行い、伸長を促す。

◆適正着果・病虫害防除等講習会開催について

次の日程により講習会を開催しますので、都合のよい会場で受講して下さい。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
6月 2日	月	午前 11:00	中真島中央道（真島）	根津
		午後 1:30	西部流通センター	徳武・外谷
		午後 2:00	小林 隆雄様園（梵天）	根津
		午後 3:00	塩崎第1共選所北側（稻荷山駅前通）	徳武・外谷
6月 3日	火	午前 9:30	福島 宏之様園（瀬原田）	徳武・佐藤
			若穂果実流通センター前（綿内）	寺澤
		午前 11:00	若穂営農資材センター前（川田）	寺澤
		午後 1:30	柳沢公民館前	徳武・佐藤
			山新田公会堂（綿内）	寺澤
		午後 3:00	有旅公民館前	徳武・佐藤

※松代・川中島地区は、各戸対応いたしますので、果樹営農技術員にご相談ください。

◆「カットリんご」取り組みについて

表題の、加工りんごの取り組みの希望者を募ります。

この取り組みは、着色作業（葉摘み・玉回し・反射マルチ）が不要で、品質は、最も食感が重視され、食味が一定基準以上であれば、通常、荷受している農家詰めオープン箱レベルが目安で販売が可能です。

販売価格も安定販売が見込まれ、収量さえ確保すれば、経営の安定化が図れます。このため、専用園地や樹での栽培を推奨しています。

本年度より、取り組みについても一部見直し（荷受時期等）が図られますので、既存の取り組み者や新規取り組み者向けに説明会（詳細説明）を開催致しますので、希望者はご参加ください。

1) 取扱品種：秋映・シナノスイート・シナノゴールド・サンふじ

もっとも販売が好ましい品種は、シナノゴールドです。

2) 出荷希望取りまとめ：取り組みの主旨や内容をご理解いただいた上で、取りまとめいたしますので、説明会時に用紙を配布致します。

締切6月16日（月）まで。計画出荷のため、以降申し込みは基本できません。

※都合で参加できない場合等、講習会以降に、果樹技術員に説明を受けていただく事も可能です。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
6月 2日	月	午前 9:30	真島フルーツセンター	根津
		午前 11:00	西部流通センター	徳武・外谷
			信更流通センター	佐藤
			若穂果実流通センター	松沢

3) 提出先：各流通センター共選所果樹技術員まで